

咲かそうのち

日蓮大聖人の教えを正しく伝える法華宗



法華七喻 ほっけしちゆ その二 「衣裏繫珠の喩え」 えりけいじゆ たと

法華経には七つの喩え話があります。今回は第二弾として、法華経五百弟子受記品第八に説かれる「衣裏繫珠の喩え」というお話を紹介します。

ある時、諸国を放浪していた貧人（成仏できないとされてきた存在）がいました。旅の最中、貧人は旧友（過去の仏）と出会い、酒（煩惱）を酌み交わし、気がつけば眠ってしまいました。旧友は貧人を気にかけて、いざという時に役立つようにと、高価な宝珠（法華経）を貧人の衣服に縫い付けました（下種）。次の日、貧人は旧友が眠っている間に席を立ち、再び旅へと出かけていきました。それから時は経過し、貧人は旧友と再会（インドのお釈迦様）することとなりました。旧友は、「衣服に縫い付けた宝珠は役に立ったかい？」と尋ねましたが、貧人は全く気づいておらず、そこで衣服を確認した所、宝珠を見つけ、その後は裕福な生活（成仏）を送ることができました。

この喩えは、これまで成仏が叶わないとされてきた者が、実は過去世においてすでに仏による成仏の種を受けているにも関わらず、煩惱等の影響によって気づいていなかったことを喩えたものです。

法華経は、全ての衆生が本来よりぼさつ（成仏確定者）であることを説いた究極の教えです。宝珠があることに気づかなかった貧人のように、私達も情報過多の時代を生きる中、正しい教えを一途に信じていることができな
い存在です。そんな儂い存在である私達でも、この衣裏繫珠の喩えに説か
れているように、必ず仏になることができることを自覚し、お題目の信心
に励んでいきましょう。

※法華宗のホームページでは法華七喩を漫画でわかりやすく紹介しています。

この機会にぜひご覧下さい。

<http://hokkeshu.or.jp/sp/manga.html>

